

平成30年度「GKP広報大賞」エントリーシート

エントリーする団体名の名称 大阪狭山市 上下水道部		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 大阪狭山市上下水道部 下水道グループ 課長 吉田耕太郎 Tel : 072-366-0011/Fax : 072-366-0034 k.yoshida@city.osakasayama.osaka.jp
代表者氏名 大阪狭山市 上下水道部 下水道グループ		
部門名 (1) 行政部門	事例名 包括的民間委託の枠組みを有効活用した市民まつりへの参画と下水道認知活動	
事例の概要 <目的> <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちに下水道に対する興味・関心をもってもらい、下水道を身近に感じてもらう。 ・下水汚泥の認知向上に貢献する。 <活動に関して> ●実施場所・日時 場所：大阪府狭山市「狭山池まつり」下水道出展コーナー 日時：2018年4月29日(日) 9:00～15:00 ●活動内容 ①市が包括的民間委託をしているパートナー企業(代表)である積水化学と一緒に、市民まつりに参画。 ②下水道管として使用される塩ビ管を使って、子供たちに好きな絵を描いてもらい、マイ植木鉢を作成。 ③土と一緒に「下水汚泥肥料」を入れ、ミニひまわりの種を植えて、鉢植えは完成。 ④家に持って帰って育ててもらうセットには、下水道及び下水汚泥肥料の啓蒙冊子(別紙1)を同封。 ⑤マンホールカードの配布と併せ、災害時用のマンホールトイレも展示し、市民まつりの参加者の関心を得た。 ●実績 当日は準備していた200セットが出展終了時間より早くなくなるほど大盛況であった。子供たちだけでなく、親御さん方も一緒に楽しみながら制作している様子がみられた。また、「下水汚泥」が肥料になることを知り、「そうなんだ!」「初めて知った」という声を多数聴くことができ、下水道及び下水汚泥の有効性を知られた。 ●今後の展開 出張講座やキットの配布で、手軽に下水道や下水汚泥の認知向上が図れる。		
エントリー事例の特徴 ●日常生活で、子供たちが意識を向けることが少ない「下水道」に対して工作(栽培セットの制作)という入り口から興味をもたせた。 ●下水汚泥が農作物の肥料として有効活用されていることを今回の体験を通じて実感してもらえた。下水道の普及だけでなく「資源の有効活用」という観点からも環境教育にもつながった。 ●鉢植えと啓蒙冊子を持ち帰ってもらうことで、その場で作って終わりではなく、家に帰っても楽しみながら継続的に学ぶことができるように工夫をおこなった。		
付属資料の提出	(あり) ・ なし (どちらかに○)	

